

報道機関各位

岩手県立大学ソフトウェア情報学部・(株)富士通システムズ・イースト 連携による教育の実施について

岩手県立大学ソフトウェア情報学部（以下、「県立大学」）では株式会社富士通システムズ・イースト（以下、富士通システムズ・イースト）と連携し、学生の「実践的問題解決能力」、「グループ作業によるコミュニケーション能力」の涵養をより一層強化するための講義を行うこととしましたのでお知らせします。

大学の教育内容が社会におけるニーズと合致しており、生涯を通じて有効に活用しうる学習をしている意識を持たせることを狙いとし、大学と企業のもつノウハウを融合することで、大学においてだけでなく社会に出てからも必要となる「価値創造の力」を高める、より効果的な教育方法を共同開発するものです。県立大学では今後も同様の試みを様々な企業と連携し実施予定です。

なお、富士通システムズ・イースト講師が参加する講義について公開しますので、ご取材についてよろしくお願ひします。

記

1. 背景：

ICT 技術をコア・コンピタンスとした、価値創造人材の育成を目指した新しいカリキュラムの一環として、「就職させることだけ」が目的ではなく、就業後の活躍と成長を促進し、常に社会の中心として活躍できる人材を輩出することを目的として取り組むもの。県立大学内では、文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を活用し、キャリアセンターと協力して実施。富士通システムズ・イーストは、震災復興支援の一環として、同社のコア・コンピタンスである ICT に関するノウハウを技術者育成のために提供する機会を模索してきた。

2. 講義名：「基礎教養入門」

コミュニケーション能力、多様な価値観の理解、論理的思考の涵養を目的にグループワーク形式で行う全 15 回で構成。将来的には 1 年生から 3 年生の共同学習という形を目指す。

(1) 講義の詳細について：

別紙シラバス参照

(2) 企業との連携内容：

富士通システムズ・イースト派遣の講師と教育方法の構想を共同で行う。授業では、問題解決の場面における現場のノウハウを学生が身につけることを目指すが、単なる技法の教授ではなく技術者としての心構えも伝える。また、演習時や成果発表会の際にコメントや講評を行う。

【対象授業：「問題分析（第6回）」、「実行計画の立て方（第11回）」、「プレゼンテーション（第13回）」、「成果発表会（第15回目）」】

3. 公開対象授業：

- (1) 日 時：平成 25 年 5 月 22 日（水）13:00～16:10（冒頭は座学中心、15:00 頃から学生によるグループワーク）
- (2) 場 所：岩手県立大学講堂
- (3) テーマ：問題分析
- (4) 講 師：株式会社 富士通システムズ・イースト 復興支援室担当課長 佐藤恭史氏

<本件の問い合わせ先> 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 講師 後藤裕介
電話 019-694-2500 Email: y-goto@iwate-pu.ac.jp



〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52 www.iwate-pu.ac.jp/

これは最も狭い形状といわれる「ハニカム構造」をモチーフに、県立大学と短大、大学院との結びつき、県民との強いつながりを表しています。
Copyright © 2011 IPU All Right Reserved.

「基礎教養入門」の詳細について

1. 講義の特徴

「社会において一般に存在する、複数の利害関係者が関与する問題に対し、論理的分析と説得的提案により利害関係者の価値観を尊重しつつ納得してもらえる提案の創造を実現できるようにする」ことを目標と定め、1年前期に必修科目として実施。グループによる問題発見・解決のプロセスを、ケーススタディを通じて理解する。ケーススタディを実践する上で必要なマインド、考え方、知識を、企業の第一線で活躍中の外部講師による講義を通じて身につけるという講義スタイルをとる。ソフトウェア情報学部における就業力育成のための授業科目群のひとつ（図1をご参照ください）。

2. 講義のねらい

- (ア) 問題解決の基本的な流れを理解する
- (イ) 論理的な分析と説得的な発表ができるようになる
- (ウ) グループで作業し、グループに貢献できるようになる

3. 学習目標

- (ア) ケーススタディを通じて問題解決プロセスを理解
- (イ) 問題解決の基本技術を習得する
- (ウ) 論理的な分析と説得的な発表ができるようになる
- (エ) グループワークで自らの役割を意識した行動をとることができるようになる

4. 講義日程

回数	日程	内容	実施単位
01	4月17日	全体ガイダンス, 個人特性分析	全体
02	4月24日	オリエンテーション	研究室
03	5月01日	全学共通講義(1)	全学
04	5月08日	課題説明, 問題把握(1/2)	研究室
05	5月15日	全学共通講義(2), 問題把握(2/2)	全学, 研究室
06	5月22日	問題分析(全体), 問題発見・分析(1/2)	全体
07	5月29日	問題発見・分析(2/2)	研究室
08	6月05日	中間発表会, ふりかえり	研究室
09-10	6月12・26日	解決案決定	研究室
11	7月03日	実行計画作成(全体), 実行計画作成(1/2)	全体
12	7月10日	実行計画作成(2/2)	研究室
13	7月17日	プレゼン(全), プレゼン作成(1/2)	全体
14	7月24日	プレゼン作成(2/2)	研究室
15	7月31日	最終発表会・表彰(全体), ふりかえり	全体, 研究室

5. ケーススタディ課題のさわり

2013年5月現在, A家は父(55)・母(45)・長男(21)・長女(11)の4人家族でS町の一軒家に住んでいる。父方の母である祖母(85)も同町内に一軒家を構えているが, 高齢による膝の痛みのため1年前から週2回通院をして治療している。通院に際しては, 祖母は脚が不自由なこともあり, 母が付き添いをしている。ところが, 最近母が過労で倒れた……。様々な, 事情を抱えるA家のメンバーたち, 彼らはどうすれば良いのだろうか。我々の日常生活で起こりうる解が一意に定まらない問題。学生はこの問題状況下で, A家のお父さんを学生の恩人と仮定し, A家のお父さんから相談を受け, この問題を解決したいと考えることを求められる。その上で, 特定の期限内に, 家族全員の価値観を尊重したいお父さんに改善案を提案することが求められる。

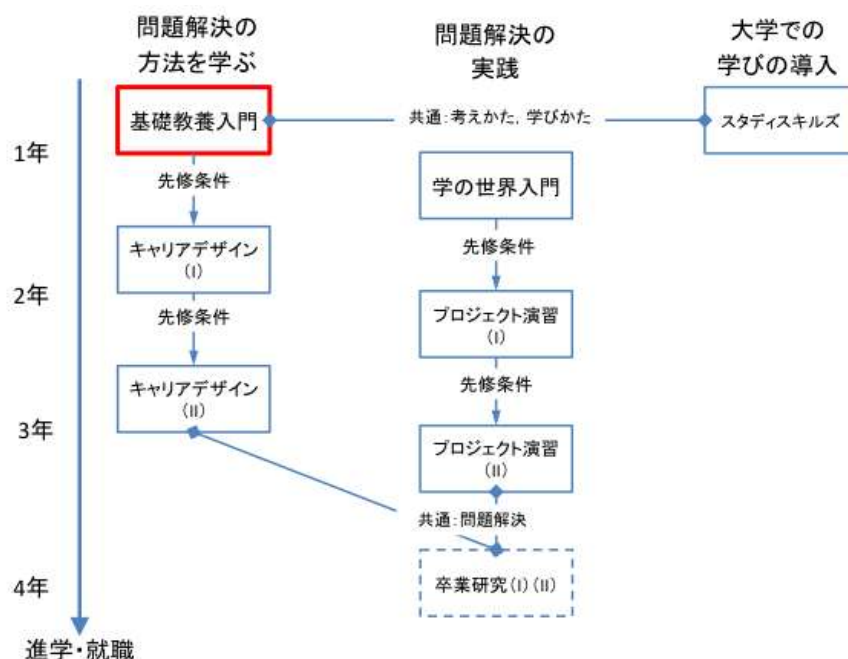


図1 本学部の就業力育成のための授業科目群

- ※ プロジェクト演習は、平成19年度より開講されている、全国でも珍しい3学年混成型の問題発見・提案型の演習。初年次教育の取り組みとして第三者機関に高い評価を受けた (http://www.kawaijuku.jp/research/pdf/kawai_1009.pdf 参照)。
- ※ スタディスキルズは、大学はもとより、人生における「学び」を自主的・継続的に行うための基礎を身に付ける授業として平成25年度より開講されている科目。授業の様子は、<http://www.facebook.com/ipu.softy> にて公開されている。